

令和元年度(2019年度) ・ 令和2年度(2020年度)

高等学校における「学びのユニバーサルデザイン」構築事業

事業総括

【本スライドの流れ】

- I 事業の概要
- II 事業の取組
- III 実施校の取組と成果



熊本県教育庁県立学校教育局 特別支援教育課

I 事業の概要

高等学校における「学びのユニバーサルデザイン」構築事業 (以下、「学びのUD」と表記。)

1 目的

県立教育センター、スーパーティーチャー、特別支援教育コーディネーター（特別支援学校）のサポートにより、UDの視点を取り入れた授業改善を実践することで、教育的支援を必要とする生徒を含む、すべての生徒の「学び」を保障する。

2 実施期間

2019年8月から2021年3月末までとする。

3 対象

事業の対象は県立高等学校とし、実施校の上限は3校とする。

4 実施校の紹介

令和2年度（2020年度）
学校経営案より

天草高等学校倉岳校



学科：普通科
生徒数：43人
1学年：10人
2学年：17人
3学年：16人

人吉高等学校五木分校



学科：普通科
生徒数：27人
1学年：12人
2学年：9人
3学年：6人

湧心館高等学校（全日制）



学科：普通科・情報処理科
生徒数：290人
1学年：93人
2学年：109人
3学年：88人

5 内容

(1) UDの視点を取り入れた授業改善に係る実践

- ア 学習環境の整備をはじめとする基礎的環境整備の充実を図る。
- イ お互いのよさや違いを認め合う関係をつくる。
- ウ ペア学習、班別学習等における言語活動の充実を図る。
- エ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画に基づいた一斉授業における個別の配慮を提供する。

(2) 授業者と参加者双方の授業改善につながる授業研究会の実施

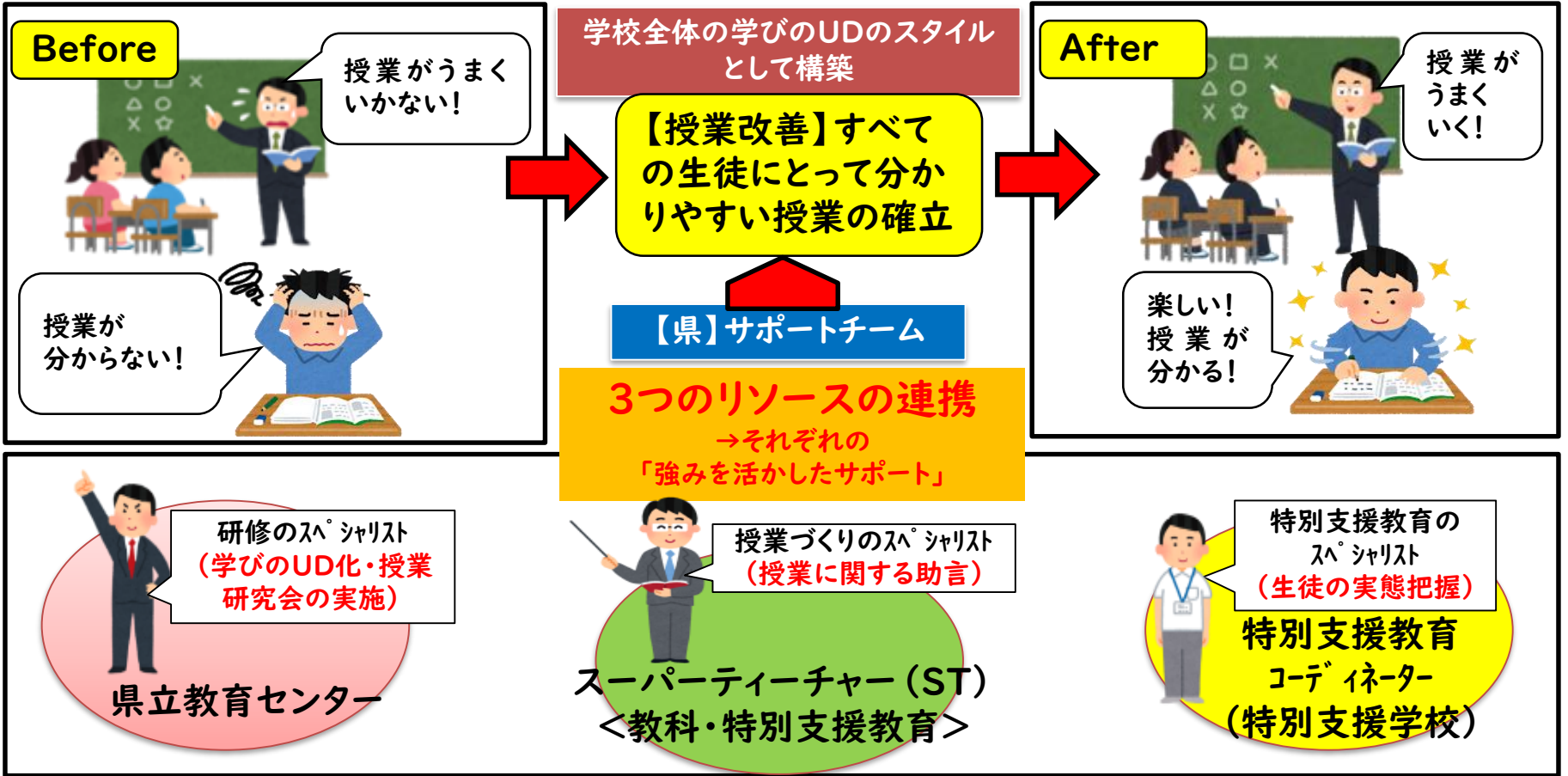
- ア 教科横断型の授業研究会を実施する。
- イ 授業研究会の内容を共有し、参加者の一人一人の授業改善につなげる。

(3) サポートチームの派遣

サポートチームは、県立教育センターの担当指導主事、スーパーティーチャー及び特別支援学校の特別支援教育コーディネーターを構成員とし、実施校ごとに県教委が編成する。

- ア 県立教育センターの担当指導主事は、UDの視点を取り入れた授業改善及び授業研究会に関する研修を行う。
- イ スーパーティーチャーは、実施校の授業を参観した上で、教科指導の専門性の向上及び授業にUDの視点を取り入れた授業改善について指導助言する。併せて、後日実施する実施校の授業研究会に助言者として参加する。
- ウ 特別支援学校の特別支援教育コーディネーターは、実施校の授業を参観した上で、障がいの状態や特性に応じた指導内容や方法を提案する。

事業内容のイメージ



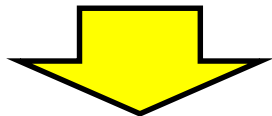
Ⅱ 事業の取組

1 UDとは？

「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障がいの有無などに関わらず、できるだけ多くの人々が利用できるようにデザインすること。

2 学びのUDとは？

障がいの有無などに関わらず、**すべての生徒が安心して学ぶことができる教育環境**を整備すること。



「すべての生徒が安心して学ぶことができる教育環境」とは、安心してできる人間関係や環境の中で、分かりやすい授業が展開されているということです。この「教育環境」を整備することにより、生徒たちは基礎的な知識や技能を習得し、思考力・判断力・表現力等を育むことができます。

3 学びのUDを進めるポイント

①環境づくり

言語環境・生活環境を整える

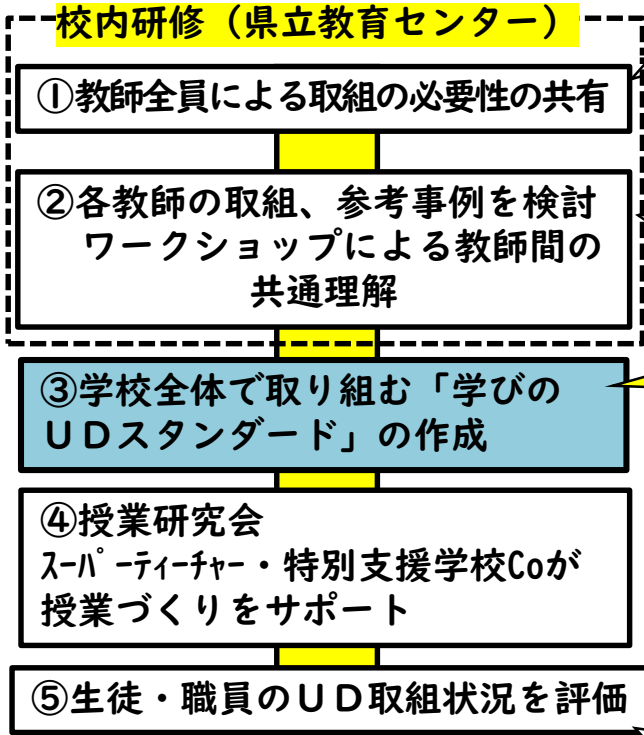
②人間関係づくり

支持的風土づくりに努める

③授業づくり

生徒の特性を踏まえた
授業づくりを目指す

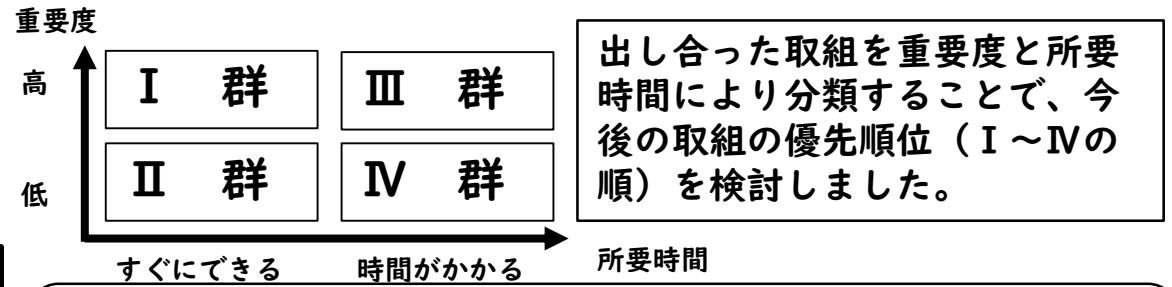
4 学校全体で学びのUDに取り組む



県立教育センターの指導主事を講師として、学びのUD研修を実施し、学校全体で取り組む必要性を共有するとともに、全員で取り組む意識を高めました。

各教師の取組を出し合い、すぐにできる取組、効果が高い取組に整理し、それを全員ができる取組として修正することで、具体化を図りました。

「環境づくり」「人間関係づくり」「授業づくり」の取組整理



出し合った取組を重要度と所要時間により分類することで、今後の取組の優先順位 (I~IVの順) を検討しました。

達成目標と具体的な行動計画を立て、学期毎にチェックシートなどを活用し、評価を行いました。評価をもとに更なるUDの視点を取り入れた授業改善を図りました

すべての生徒が安心して学ぶことができる教育環境の整備

4 学校全体で学びのUDに取り組む

(1) 学校全体で行うことの大切さ

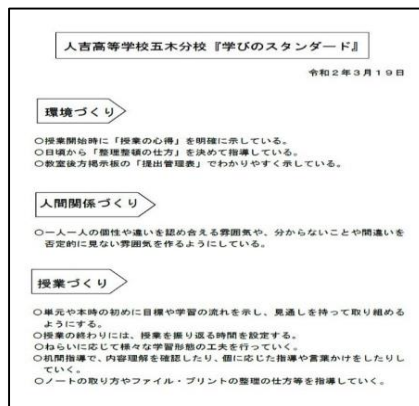
学びのUDの取組は、各学級でそれぞれに行うよりも学校全体で取り組む方が効果が高まります。なぜならば、**教室の環境面や授業の基本的なルールなどを学校で統一**することで、**学年や学級が変わった時の生徒の戸惑いが少なくなり、安心して学校生活を送ることができると思われる**からです。

実施校で統一された学びのUDスタンダード ※詳細は、各校の動画コンテンツをご覧ください。

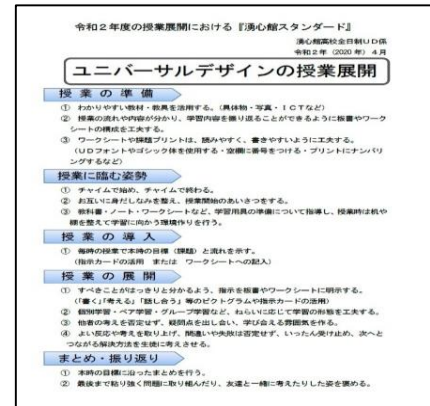
天草高等学校倉岳校



人吉高等学校五木分校



湧心館高等学校 (全日制)



4 学校全体で学びのUDに取り組む

(2) 校内研修の実施

学びのUDを学校全体で取り組むための**校内研修**を県立教育センターに実施していただきました。

校内研修（概略）

①事前アンケート紹介

実態把握：実施校の特別な支援や配慮が必要な生徒について

*全ての生徒が安心して学べる教育環境を整備すること

→学びのUD化（環境づくり・人間関係づくり・授業づくり）

②リフレミング

すぐできる言葉かけのUD化

③「学びのUD化」の視点から自身の実践を見つめる。

「学びのUD化」チェックリストの活用→項目内容を意識する大切さ

④実施校の「学びのスタンダード」の作成に向けて

各教師の取組を出し合い、すぐにできる取組、効果が高い取組に整理し、それを全員ができる取組として修正することで、具体化を図る。



4 学校全体で学びのUDに取り組む

※今回、実施した学びのUD研修の申込は県立教育センターのHPからできますので、スクールサポートの活用をお願いします。



県立教育センターのスクールサポート

申込は**簡単**！ 教育センターHPから

検索

スクールサポート

スクールサポート申込フォーム

当教育センターでは、県内各学校等が主体的に進める教育活動の充実及び教職員の指導力の向上の支援のため、所員が出席し、助成も行っています。

各種教育研究会、市町村教育委員会（熊本市を除く）、教育事務所からの要請に応じて行います。

① 生涯学習

- ・学校経営・運営等に関すること
- ・教科等指導に関すること
- ・今日的な教育課題に関すること（道徳教育、外国語教育、情報教育（プログラミング教育等）、特別支援教育、防災教育）

② 児童生徒理解に関すること

- ・校内研究等の推進に関すること等、ご要望を伺います。



※今回の研修の実施

- ・天草高等学校倉岳校 1回
- ・人吉高等学校五木分校 2回
- ・湧心館高等学校 1回

4 学校全体で学びのUDに取り組む

(3) 生徒の困難さに応じた学習上の支援のポイント

特別な教育的支援を必要とする生徒は、成功体験の少なさから学習意欲が低下している場合があります。UDの授業づくりに取り組むことで分かる場面が増え、達成感につながり、生徒の学習意欲の向上が期待できます。特別な教育的支援が必要な生徒にとって分かりやすい授業は、他の生徒にとっても分かりやすく学びやすい授業になります。

生徒の困難さに応じて、教え方を変えていく授業
生徒の困難さに応じて、いろいろ学び方を選べる授業

生徒にとって
分かりやすく、
学びやすい授業

***生徒の実態を無視した授業になっていませんか？**

生徒の「分からない・できない」ことを生徒の努力不足や家庭環境のせいにしていませんか？

4 学校全体で学びのUDに取り組む

生徒の困難さに応じた授業づくりの取組（例）

	困難さの具体的状況	授業づくりの取組
聞く	聞き間違いが多い。 指示の理解が難しい。	<ul style="list-style-type: none">・聞いたことを復唱する場面をつくる。・指示は短く、大切なことは文字や絵で示す。・「聞くとき」と「書くとき」を分けて指導する。・分からないことを伝える際の方法を決めておく。・座席の配置を前方にする。
話す	適切な速さで話すのが難しい。 内容を分かりやすく話したりすることが難しい。	<ul style="list-style-type: none">・生徒の話の途中で適切な言葉を補う。・5W1Hカードや写真などの視覚的情報を用意する。・生徒が興味のある話題を用意する。・安心して話せるよう少人数の場を用意する。
読む	音読が難しい。 読み間違いが多い。 文章の要点を読み取ることが難しい。	<ul style="list-style-type: none">・読む時間を確保する。・指でなぞりながら読むよう決めておく。・プリントの行間を広めにする。・短い文章をたくさん読むようにする。

4 学校全体で学びのUDに取り組む

生徒の困難さに応じた授業づくりの取組（例）

	困難さの具体的状況	授業づくりの取組
書く	読みにくい字で書く。 書き間違えが多い。 書くことがゆっくり。	<ul style="list-style-type: none">・手本を用意する。・文字を書くときに言葉に出して書くように指導する。・「聞くとき」と「書くとき」を分けて指導する。・板書が必要な箇所を囲む。・ノートの使い方を指導する。・書く量を調整する。
計算 推論	計算が苦手。 学年相応の文章題を解いたり、図形を描いたりすることが難しい。 先を見通して取り組むことが難しい。	<ul style="list-style-type: none">・問題を「聞く、読む時間」と「計算する、考える時間」に分けて指導する。・視覚的な手掛かりや具体物を使用する。・活動の手順を細かく分け明確化する。・考え方や立式の仕方が分かるワークシートや習熟度別のワークシートを準備する。

4 学校全体で学びのUDに取り組む

生徒の困難さに応じた授業づくりの取組（例）

	困難さの具体的状況	授業づくりの取組
不注意	学習で不注意な間違いが多い。 集中力が乏しく最後までやり遂げることが難しい。 物事を順序立てて行うことが難しい。	<ul style="list-style-type: none">・ 授業を短い時間ごとに分けて構成する。・ スモールステップで進めるよう課題を小分けにする。・ 授業の冒頭で関心を高める指示やゲームなどを行う。・ 机間指導で、今、何をすべきかアドバイスをする。・ 学習の流れを提示し、今どこを学習しているのか確認できるようにする。・ 忘れ物に配慮しておく。
多動性	離席が多く、そわそわしている。 順番を待つことが難しい。 他の生徒の邪魔をする。	<ul style="list-style-type: none">・ 話を聞くだけの時間を減らし、動ける時間を設ける。・ 視覚的に時間を意識させるためタイマーを活用する。・ グループ学習などの授業の形態を工夫する。・ 学習のルールを明確化する。・ できているときにしっかり認める。・ 集中できる学習量を配慮する。

Ⅲ 実施校の取組と成果

I 取組（好事例）



この取組「いいね！」

環境づくり

後方掲示板の活用

教科連絡用ホワイトボードを準備。
提出物（締切日）等を記載。

掃除用具入れの整理

掃除用具の整理の仕方を写真で分
かりやすく視覚化。

ロッカーの整理

ファイル・教科書等を背表紙が見
えるように縦置きに。

「授業の心得」等を視覚化し掲示
生徒に意識してほしい事項の焦点
化、視覚化。

人間関係づくり

生徒の発表時の賞賛

「ありがとう」「いいね」等の褒め言
葉で、生徒の自己肯定感UP。

ペア・グループワークの活用

互いに教え合う、助けを求める。
グループ対抗での競い合いも。

ワークショップの実施

自分のアサーションの傾向を理解し、
自己理解を図る。

気持ちの良いあいさつ

語先後礼、立ち止まってのあいさつ。
教師も同様に行う。

授業づくり

「目標」「重要」等のカード活用
ポイントを視覚的に強調。何を目指し
て学ぶのか分かりやすく。

情報伝達（視覚化）の工夫

ICT等を活用し、分かりやすさ
や思考の深まりにつなげる。

プリント：問題（表）、解答例（裏）
各自で確認しながら個のペースで学習
を進めることが可能、学力差へも対応。

学びのUD化ノート

板書を整理しながら記入できる「6ブ
ロックに分けたノート」を作成

※詳細は、各校の動画コンテンツをご覧ください。

2 成果

【生徒】

- 学ぶべきことを意識しながら取り組むことができ、授業の理解度が向上した。
- 分からないことを気軽に質問できるようになるなど、安心して授業に参加できるようになった。
- 落ち着いて授業に取り組み、ペア活動やグループ活動にも積極的に参加できるようになった。
- 生徒同士のつながりができ、学級があたたかい雰囲気になった。
- 時間の厳守、授業の準備ができるようになった。
- 授業プリントを時間内に整理、確認することでプリントの紛失が減少した。
- 個人棚の整理ができるようになった。

【教師】

- 生徒が困っているところは何か、どうすればそれを軽減できるかを考えることで「分かる授業」のための工夫、改善ができた。
- 生徒の実態に合わせた授業展開の方法や、声掛けの方法など今後の生徒支援に役立つ情報を知ることができた。
- 生徒への指示の出し方、授業プリントの工夫について学んだことで、生徒が理解しやすい構成にすることができた。
- 授業だけでなく、校務全般に関してUDの視点を意識して取り組むようになった。
- 他教科の先生と、授業について話をするようになった。
- 生徒の良い部分を見つけることができるようになった。

※詳細は、各校の動画コンテンツをご覧ください。

3 まとめ（総括）

学びのUD構築事業

UDの視点を取り入れた授業改善を実践することで、教育的支援を必要とする生徒を含む、すべての生徒の「学び」を保障する。

すべての生徒が安心して学ぶことができる教育環境の整備

学習環境の整備をはじめとする基礎的環境整備の充実を図る。



湧心館高校
目標等の提示（見える化）の工夫

授業の流れと目標を生徒に明確に示し、本日学ぶ授業を「見える化」しました。

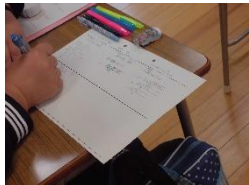
お互いのよさや違いを認め合う関係をつくる。



天草高校倉岳校
人間関係づくりの工夫

自分のアサーションの傾向を理解し、自己理解を図るため、人間関係づくりワークショップを実施しました。

個別の教育支援計画及び個別の指導計画に基づいた一斉授業における個別の配慮を提供する。



人吉高校五木分校
ノートをUD化する工夫

板書を整理しながら記入できる「6ブロックに分けたノート」を作成しました。

ペア学習、班別学習等における言語活動の充実を図る。



湧心館高校
授業形態（共有化）の工夫

グループ活動の場面を取り入れて、生徒相互に学び合うことで、理解や考えの深まりを図りました。

※詳細は、各校の動画コンテンツをご覧ください。

3 まとめ（総括）

天草高等学校倉岳校



人吉高等学校五木分校



湧心館高等学校（全日制）



実施校の取組から、高等学校に在籍する多様な教育的ニーズのある生徒たちを含むすべての生徒の「学び」を保障するためのヒントを得ることができま。参考にしていただくことで、今後、多くの高等学校による実践を期待しています。

